

PICK UP いじめが起りにくい学校風土づくり

リーダーとなる教員を育成

いじめ予防授業の実施にあたり、各校で教員1人を「いじめ予防リーダー」に指定し、理論や事例を学ぶ研修を実施しています。年度ごとに異なる教員がリーダーを担い、2年間で約100人が研修を受講しています。今年度も引き続き、各校で中心となりいじめ予防の取り組みを進める教員を育成します。

子供たちにいじめ予防授業を実施

市内共通教材を活用し、小中学校の全クラスで3時間実施しました。2年目となる昨年度は、1年目に学んだ知識を基に友達と考えを共有し、「自分事」として考えを深めることができました。この取り組みにより、いじめの深刻化を見抜くためのキーワード、「アンバランスパワー^(※1)」や「シンキングエラー^(※2)」が子供たちの中に浸透し、子供自身がいじめに気づき、教員に伝えるという行動が見られるなど、成果が表れています。また、いじめの予防には、保護者の理解が必要です。教材に、「家の人と話し合おう」というコーナーを設けるなど、子供たちが学んだことを家庭で話せるように工夫しています。



いじめ予防授業の様子

※1 片方が力が強い、友達が多いなど両者の力関係が不均衡であること。

※2 「みんなやっているから」「相手が悪いから、傷つけてもいい」などの誤った考え。

動画コンテンツを活用して いじめ問題を解決

ともだちづくり・かかわりづくりプログラム

市は昨年度、文部科学省の委託事業「いじめ・不登校等の未然防止に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究」を受託し、有志の教員が研究員となって構成する研究会を立ち上げました。そして、研究員が発案したいじめのエピソードを基に、問いや解説を加えた「ともだちづくり・かかわりづくりプログラム」を開発しました。

プログラムの目的

子供にとって身近で起こりうる事例をテーマにした動画を視聴し、何が適切な行動なのかを考える習慣をつけ、実際の社会生活の中でも行動できるように促すことを目的としています。一つ一つの動画が短く、分かりやすいものになっているので、家庭などでも気軽に視聴できます。プログラムの内容は教育センターのホームページで公開しています。



プログラムの内容はこちら



ともだちづくり・かかわりづくりプログラムの一場面



同プログラムを活用した授業の様子

また、研究推進校を市内の学校から募集し、同プログラムの活用を他校に先駆けて実践してきました。2月18日に実施した同事業の報告会では、取り組みの成果や教員の声が発表されました。

教員の声 全員で同じエピソードについて考えて意見交換することで、周りの友達の考え方を知り、自分を客観視する良い機会になっています。今後も子供たちの行動の変化に注目したいと思います。

教育理念

今 吹田から未来の力を
生命かがやきともにつながり
未来を拓く吹田の教育

第73号 教育だより

令和4年(2022年)4月1日 発行 吹田市教育委員会 朝日町3 ☎6155・8084 FAX6155・8077

いじめ防止の取り組み

すいたGRE・ENスクールプロジェクト

市では、子供たちが安心して学校生活を送れるように、学校、教育委員会、市が一丸となって、いじめ防止に取り組んでいます。詳しくは学校教育室のホームページへ。☎同室(朝日町☎6155・8192 FAX6155・8872)、教育センター(☎6388・1455 FAX6337・5412)。



同室のページ



「すいたGRE・ENスクールプロジェクト」とは

いじめのない学校づくりの実現を目標に、子供たちが友達や先生、地域住民と良い関係を築き、楽しみや喜びを感じながら過ごせる学校環境を整えるためのプロジェクトです。プロジェクト名のGRE・ENは、good(良い)、relation(関係・間柄)、enjoyment(楽しみ・喜び)の頭文字をつなげたもの。例年約1億5000万円の関連予算を確保し、取り組みを進めています。

具体的な取り組み

(1)いじめが起りにくい学校風土づくり

- 教職員研修の実施
- 文部科学省委託事業の受託

- いじめ予防授業の実施

(2)見守る人員の確保と体制の強化

- 小学1・2年生の生活や学習を支援するスターターの配置
- 迅速かつ柔軟に教職員へ助言などを行う、いじめ対応支援員の配置

- スクールソーシャルワーカーの配置時間の充実
- いじめ対応専任相談員(スクールカウンセラー)の配置
- スクールロイヤー(弁護士)との連携強化
- いじめ防止相談ツール「マモレポ」の運用

市のいじめの認知件数の推移

「からかいや冷やかし」など比較的軽度と思われるものも、いじめとして認知し、組織的に丁寧な対応を徹底していることから、令和元年度から認知件数は増加傾向にあります。令和2年度は、前年度から減少しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業や、いじめ予防授業による児童・生徒のいじめへの認知の高まりなどが主な要因として考えられます。



※令和3年度の認知件数は集計中